

福島敏夫随筆集「乙戸南雑話【花鳥風月及び星・虹を愛でながら】から

## 主宰論説9

### 源三窟

ゴールデンウィークの後半、家族サービスの形で、那須高原の探訪を目的に、塩原温泉に一泊した。その翌日に、【源三窟】という史跡の鍾乳洞を訪れた。源義経の副将であった源有綱が、義経追討の、後白河法皇の院宣が下ることにより、義経の異母兄の源頼朝から追われることになり、この洞窟に逃げ込んで、再起を期して、2年間も家来と三人で隠れ住んでいたらしい。それにしても、このような狭い肌寒い洞窟中で、2年間も良く生き続けられたということは、よほどの強い意志の支えがなければかなわないと思われた。人間は、生きるためには、ただのんびりした生活を満喫することもさることながら、ある程度、生きがいがないしは目標というものが必要らしいとしきりに感じ入った。

平成 24 年 5 月 5 日

俳句：あなかしこ源の強い意志も潰えたり

### 夢

今日不思議な夢を見た。昔大学院時代に、光物性の研究の一環として、硫化亜鉛中のテルル等電子トラップ (ZnS:Te) の発光過程のメカニズムの究明を行っていた。それが今になって認められて、JSDR という研究所(夢なので実際に存在するのか定かでない)で、真空紫外線領域での光物性研究という大プロジェクトで、レーザーと高性能分光装置を使った半導体の研究を復活させる要請を受けて、昔の助手の方と一緒に携わることになった夢である。もうかれこれ 35 年以上昔の話に関連した夢をみるとは驚きである。まだ未練があるせいか？ または今になって認められることを妄執しているのか？ 夢は、時空を超えたものであるというが、考えてみると不思議である。

夢を考えると、楽しく、良いこともあるが、最近、昔親しんだ恩師、先輩、同級生、後輩らが、一人、二人と亡くなっていくつつを顧みると、つつの夢や希望と違い、睡眠時の夢は、過去の思い出に関連したものが多いうだと気づく。懐古趣味のなせることかなとふと思う。

平成 24 年 4 月 30 日

俳句：夢枕うつつ幻楽しみぬ

令和 2 年 9 月 26 日脱稿

短歌：夢の中時と空間乗り越えて自由に遊ぶ蝶々かな

### 夢 (2)

今日再び不思議な夢を見た。昔大学院時代に、光物性の研究の一環として、II-VI化合物半導体におけるドナー・アクセプター対による吸収端発光過程のメカニズムの究明を行

っていた。その中で、**ZnS: Cu, Al**による明るい緑色発光の発光ダイオードと、**ZnS**、**ZnSe**による赤及び青色の発光ダイオードを組み合わせ、光の三原色を実現させるために、実験研究をやっている夢である。もうかれこれ45年以上昔の話に関連した夢をみるとは驚きである。うつつには、もう、建築材料等に関連した別の分野で研究をしているので、二度と、半導体の光物性の研究に戻ることはないと思うけど、今、新しい形で、高分子材料の光劣化過程の可視化やコンクリートの中性化の可視化という形で、光と関連しているようだ。夢は、時空を超えて見るというが、二度も、昔の光物性時代に関連した夢を見るとは、考えてみると不思議この上ないことである。

令和2年9月26日

俳句：夢の夢目覚めて知るは風の音